

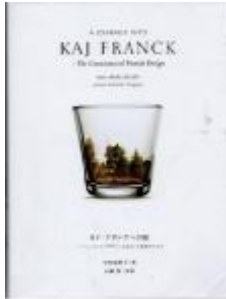
# カイ フランクのデザイン

KAJ FRANCK

22.11.6

カイ フランクはフィンランドを代表するプロダクト デザイナーです。

現在渋谷のbukamura ザ・ミュージアムで「イッタラ展フィンランドのきらめき」が開催されています（～11月10日まで）。



カイ フランクへの旅

「新美の巨人たち」の番組の中で「KAJ FRANCK カイ フランクへの旅」小西亜希子著という本が目にはいりました。

カイ フランクのことは1960年代にデパートで北欧展やスカンジナビア展そしてフィンランド デザイン展などが開催され、興味があり見て回りました。さらに当時「スカンジナビア デザイン（1964年出版）」のカラー印刷されたハードカバーの写真集を購入

しました。この本には陶器磁器、ガラス、家具、テキスタイルなどがカラーやモノクロで掲載されていて、今見ても新鮮で魅力的なデザインです。ここにカイ フランクの作品が幾つも載っていました。

そのころイッタラのガラス製品が手ごろな価格で販売され購入しました。しかしカイ フランクのものも欲しいと思っていましたが展示の中には見当たりませんでした。

その後機会をみてはイッタラ製品を買い、アアルトのアアルトコレクション ベース 160mmも手にいれました。

カイ フランクの経歴や人柄はあまり知りませんでした。フィンランドのプロダクトデザインの巨匠ということは解かっていましたが「カイ フランクへの旅」を読んで彼の活動した軌跡がよく理解できました。カイ フランク本人とパートナーそして弟子たち、さらにその後影響を受けた人たちの作品が美しい色彩の写真が多く掲載されていて魅力的な本です。

カイ フランクの作品は、一貫してベーシックなデザインを追求し無駄な装飾は排除し機能的でシンプルな作品を生み出しました。現場で形や色彩などについて職人と意見交換しながら制作していたそうです。

カイ フランクはテーブルウェアとして「ティーマ (テーマ)」や「カルティオ (円錐の意)」の二大シリーズの作品がよく知られています。



経歴を見ると、1911年フィンランド生まれ、ヘルシンキ中央工業学校卒業、兵役をし、アラビア製陶所、イッタラ、ナポリのガラス工場、日本訪問、アアルト大学で教鞭、1989年ギリシャで死去、数々を受賞

彼は同一場所ではなく様々な企業や教鞭などで仕事をし幅広い活動をしカイ フランクの横顔 ていることが作品のユニークさや深みを生み出したのでしょう。



”フィンランド・デザインの良心”の軌跡をめぐる



カルティオの原型のタンブラー



カイのデザイン、「EASY DAY」シリーズ1978年発売



色の組み合わせ」が」美しい  
カイのデザイン



S夫妻が使っているカイの作  
品たち



カイの作品たち



カイの作品たち



左側がカイ



量産品のカイの作品たち



カイによるカルティオのグラス



私の愛読書



※  
アアルト  
アアルト  
コレクション  
ベース

フィンランドを代表するライフスタイルブランド、イッタラ。1881年にフィンランド南部のイッタラ村に設立されたガラス工場からスタートした同ブランドは、アルヴァ・アアルトやカイ・フランクらフィンランドデザインの発展を牽引した建築家やデザイナーとともに歩んできました。美しさと機能性をすべての人へ提供するという彼らの思想のもと送り出されてきたプロダクトは、今なお世界中で愛され続けています。

「イッタラ展 フィンランドガラスのきらめき - Bunkamura」のサイトより

写真は「KAJ FRANCK カイ フランクへの旅」からコピーさせて頂きました。

※ フィンランドの建築家・世界的な巨匠、アルヴァ・アアルトにより 曲線美・有機的な形のモチーフは、フィンランドの湖の形などといわれています。このガラスの花瓶（ベース）は、イッタラの工房で今も手吹きで制作されており、熟練の職人たちの力をひとつにしてベースを完成させているそうです。